

リンゴシジミの飼育法

全般

“リンゴシジミ”初めて名を聞いた時からこの蝶が好きになり、飼育して幼虫を見て更にもっと好きになった。成虫を見るとリンゴの名称に？と思い、リンゴを植樹にしているのかと思ったが、飼育して初めて分った、幼虫の色合いはまさにリンゴである。リンゴからの連想ではあるが、“リンゴシジミ”は青森辺りには生息しないのであろうか？

リンゴシジミはゼフィルスではないが、その飼育方法にはゼフィルスの飼育法と共通点が多いので「ゼフィルスの飼育法共通編」を参考にして戴きたい。越冬卵の冬季保管法はゼフィルスと全く同様である。但し孵化時期がゼフィルス一般種に比べてかなり早いので注意が要る。ベニモンカラスシジミ、ウラゴマダラシジミほど早くはないが、早い場合は2月中に冷蔵庫内で孵化してしまう。

野外での本種の植樹はエゾノウワミズザク、

孵化～3齢幼虫までの飼育

植樹系統が確認されている場合はその系統の植樹を使用し、不明の場合は両系統を同時に与えて食性を調べることから始める。桜系の場合、エゾノウワミズザクラ、シウリザクラは普通には入手できないので、他の桜種を代替使用する。3月始めに入手可能な桜系統の食餌には、名前は分らぬが早



羽化したリンゴシジミ♀

シウリザクラなどの桜系と、スモモ、ウメ、アンズなどスモモ系の2系統が有り、各々自系統のみを食べ異系統の植樹は好食しないと聞かすが、自分では確認していない。この植樹系統の違いに原因があるか分らないが、飼育する場合は孵化幼虫の植樹への食いつきに問題があり、植樹新芽に付けた孵化幼虫数に対して3齢で回収する幼虫数が目減りすることが多い。本種の卵を入手して飼育する場合は、植樹の系統を確認しておくことをお勧めする。

咲き系統の数種の桜の花蕾があり、これを幼虫に与える。生息地では孵化幼虫はエゾノウワミズザクラの新葉を食べている。入手できるのは花蕾であるが支障はなく、むしろ好適と考えている。花蕾の付いた小枝をプラシャーレに入れ、これに孵化幼虫を付ける。枝の根本を水を含ませたティッシュで包む方法、瓶挿し法も使用できる。初齢幼虫は大変見つけにくく

花蕾中に潜入したりするので、3 齢になって目立つまでは新鮮な植樹の補給にとどめ、幼虫の回収はしない。飼育の一例では孵化幼虫 9 頭に対して回収 3 齢幼虫は 8 頭であった。

スモモ系の場合は、3 月始めに豊富なウメの蕾を使用した。この時期スモモはまだ蕾が小さいため使用しなかった。野外では 1 本のスモモで全幼虫行程を過ごすのだから、小さな蕾から使用すれば良かったかもしれない。孵化幼虫 17 頭に対して、回収幼虫は

10 頭であった。



ウメの蕾上の 3 齢幼虫

3 齢以降の飼育

この時期の幼虫は、特にスモモの場合、花蕾以外の新芽も好食する。ゼフィルス

の飼育と同様にして全く問題がない。蛹化、羽化もゼフィルスの飼育と同様である。



スモモ蕾を食べる 4 齢幼虫



スモモの葉を食べる終齢幼虫



小枝上の蛹